

幸せな社会



もくじ

- ②③ 令和3年度 社協の事業計画と予算
- ④ 子どもたちの福祉の学びを支援します
- ⑤ 社協 TOPICS / 企業の地域貢献
- ⑥ ボランティア電話相談を行う3団体を紹介
- ⑦ 寄付報告 / 福祉センターからのお知らせ
- ⑧ ボランティア掲示板

令和2年度 市民後見人養成講座 市民26名が修了！

判断能力が不十分な方の権利を守る「市民後見人」の養成講座が終了しました。

講座は、昨年11月17日から12月22日の期間で行われ、26名の市民が民法の基礎、年金や生活保護などの関係制度、成年後見の実務などを学びました。

最終日には江別市成年後見支援センター中川センター長から修了証が手渡され、受講者全員が江別市の市民後見人候補者名簿に登録されました。今後、市民後見人として活躍されることを期待しています。



発行

社会福祉法人 **江別市社会福祉協議会**

江別市錦町14番地87 江別市総合社会福祉センター内

☎ 011-385-1234 Fax 011-385-1236

ホームページ <http://www.ebetsu-shyakyo.jp>

メール Social-Welfare@ebetsu-shyakyo.jp

社協だより「幸せな社会」は、1月・4月・7月・10月に発行しています。

2021

4 月

QRコードを読み取って
社協ホームページへ

社協の事業計画と予算

住み慣れた地域で共に支え合い、
市民一人ひとりが安心して生活できる地域づくりを
目指します。



事業推進方針

近年、地域や家族のつながりの希薄化に伴い、生活困窮、ひきこもりや孤立、虐待など様々な生活・福祉課題が顕在化し深刻さを増してきています。

社協には、地域福祉を推進する立場から、こうした課題を受け止め、支援していくことがこれまで以上に求められています。

このようなことから第4期地域福祉実践計画2年目を迎える令和3年度は、計画の内容を基本として、より一層、市民、関係機関・団体、ボランティアなどと連携・協働し、地域社会や福祉の動向を見極めながら事業の運営に努めてまいります。

特に、くらしサポートセンターえつや江別市成年後見支援センターの運営及び生活支援体制整備事業など、コロナ禍における生活支援や複雑・多様化する日常生活上の課題を幅広く受け止め対応することが可能な総合的な相談支援体制の充実・強化に努め、一層市民から信頼、期待される社協を目指して努力してまいります。

事業計画

第4期地域福祉実践計画の基本計画ごとに令和3年度実施事業の概要をご紹介します。

【基本計画1】

地域福祉に関する情報提供や包括的な相談体制による支援

広報活動による福祉情報の提供

▽社協だよりの発行、ホームページの運営

生活課題に対応した総合的な相談支援

▽くらしサポートセンターえつやの運営による生活困窮者への相談支援、中間的就労など相談者の適性を考慮した就労支援対策の充実

▽日常生活自立支援事業による福祉サービス利用援助や金銭管理をサポート

▽江別市成年後見支援センターの運営と法人後見事業の実施による成年後見制度の普及啓発と制度利用の促進

▽生活安定のための貸付金を活用した相談支援
▽ボランティアによる日常生活上の悩みごとへの相談支援
▽生活支援体制整備事業の実施による「通いの場」づくりへの相談支援と情報提供

【基本計画2】

ボランティア活動で進める福祉の環境づくり

市民がボランティア活動に積極的に取り組めるように支援し、地域福祉の担い手として活動する環境づくりを推進

▽ボランティアセンターの運営(ボランティアの登録・派遣・団体活動費助成・活動交通費補助・ボランティア保険の加入など)
▽江別市ボランティア団体連絡会の運営

研修事業などを通して、ボランティア活動を担う市民の育成・確保

▽ボランティア活動者研修の開催
▽傾聴ボランティアの育成(養成研修・スキルアップ研修の実施)

令和3年度社協イベント情報

- ▶ 江別ふれあい福祉の広場: 7月18日(日)10時～ / 福祉センター及び周辺
- ▶ 福祉団体・ボランティア団体写真展: 7月18日(日)～25日(日) / 福祉センターロビー

〔基本計画3〕
市民参加で進める地域での生活支援や交流活動の促進

高齢者や障がい者が住み慣れた地域で安心して暮らすことを目的とした自治会の助け合い活動を支援

▽愛のふれあい交流事業
(活動費助成・ボランティア保険料助成など)

共同募金委員会との協働
▽江別市共同募金委員会事務局として共同募金運動を展開、生活困窮世帯に歳末見舞金を贈呈

市民と福祉団体が交流できるイベントを開催
▽江別ふれあい福祉の広場の開催

企業・団体の地域貢献活動への支援
▽社会貢献活動や地域行事へ活動備品(テント・パネル・机・椅子など)を貸出

〔基本計画4〕
体験学習、研修による福祉意識の醸成

市民が福祉に関心と理解を深めることを目的とした体験学

習・研修を開催
▽地域福祉活動者研修会の開催
▽いきいきシニアスクールの開催

▽ワークキャンプの開催
▽ハーブティボランティアスクールの開催

▽総合的な学習の時間へ福祉体験用具(車いす・アイマスク・高齢者疑似体験セットなど)の貸出や協力先紹介、職員派遣の実施

〔基本計画5〕
自立した生活を支援する福祉サービスの提供

高齢者や障がい者が、冬期間安心して暮らせるように除雪サービスの実施と民間の雪処理情報を提供

▽福祉除雪サービスの実施
▽除雪派遣サービスの実施
▽えつ雪の処理情報誌の発行

食事の支度が困難なひとり暮らし高齢者などへの配食
▽給食サービスの実施

障がいにより移動が困難な方

の社会生活上必要な外出介助のためガイドヘルパーを派遣
▽移動支援事業所リフレエベツの運営

福祉機器の貸与
▽福祉機器貸与事業の実施
農村地域などの保育が必要な児童の子育てを支援

▽北光保育園・野幌季節保育所の運営

〔基本計画6〕
地域に信頼される社協運営のための組織づくり

組織のガバナンス強化や透明性の向上に努め、地域福祉の推進役としての役割を発揮し、市民から信頼されるよう運営

▽第4期江別市地域福祉計画(市計画)との連携・調整により事業を推進

▽自主財源の確保や経費の効率化などによる財源基盤の整備
▽合同部会で地域福祉実践計画を評価・計画の進行管理

▽役員・評議員研修の実施
▽社協災害対策計画に基づき防災・災害対策を推進
▽総合社会福祉センターの管理運営

予算

令和3年度資金収支予算は、前年度比50万8千円減の2億9954万6千円となり、予算規模は前年度並ですが、新型コロナウイルス感染症の影響を盛り込んだ予算編成となっています。生活福祉資金貸付事業では、同感染症の影響により収入が減少した世帯への緊急小口資金等(特例貸付)にかかる相談対応経費が増加し639万6千円増となる一方、ボランティアセンター

事業では、前年度、感染予防のため、高齢者施設等へのボランティア派遣回数が大幅に減少した結果を踏まえ、令和3年度も感染症の影響が継続することを見込み250万4千円減となりました。また、生活困窮者自立支援事業では、「コロナで失業や収入減に直面」といった相談が急増する中で、生活福祉資金相談と一体的に行う支援体制を整備するとともに経済的困窮のみならず様々な生活課題を抱える方への支援を推進する経費を計上しています。

令和3年度資金収支予算書 (単位：千円)

サービス区分	令和3年度	令和2年度	比較増減
法人運営事業	91,353	91,560	△ 207
社会福祉基金運営事業	7,936	8,566	△ 630
調査・研究事業	494	492	2
広報事業	6,390	6,390	0
顕彰事業	143	143	0
江別ふれあい福祉の広場事業	1,177	1,162	15
ボランティアセンター事業	5,179	7,683	△ 2,504
住民福祉推進事業	366	367	△ 1
愛のふれあい交流事業	8,007	8,028	△ 21
給食サービス事業	44,005	47,450	△ 3,445
福祉除雪サービス事業	36,940	35,547	1,393
除雪派遣サービス事業	4,584	4,358	226
福祉機器貸与事業	448	492	△ 44
生活困窮者自立支援事業	711	712	△ 1
生活支援体制整備事業	5,000	4,810	190
移動支援事業	5,306	6,538	△ 1,232
成年後見支援事業	10,510	11,426	△ 916
福祉サービス利用援助事業	705	765	△ 60
共同募金配分金事業	5,110	5,901	△ 791
生活福祉資金貸付事業	9,899	3,503	6,396
福祉金庫貸付事業	5,942	7,029	△ 1,087
総合社会福祉センター運営事業	26,621	26,689	△ 68
北光保育園運営事業	25,607	24,780	827
野幌季節保育所運営事業	7,328	7,532	△ 204
内部取引相殺額	△ 10,215	△ 11,869	1,654
合計	299,546	300,054	△ 508

【愛のふれあい交流事業】 社協では自治会が行う福祉の助け合い活動を応援します。【愛のふれあい活動】ひとり暮らし高齢者などへの安否確認活動に年額1万円を助成、保険料助成。【地域交流の集い活動】高齢者などのために実施する交流事業へ1事業につき1万5千円(年5回まで)を助成、交通費助成、保険料助成。詳細は、社協 ☎385-1234

子どもたちの福祉の学びを 支援します

社協では、将来の担い手づくり・思いやりの心を育むことを目的とした福祉の理解を広める学びの場への協力活動を行っています。
今号では令和2年度に実施した2つの取り組みをご紹介します。

車いすを体験してみよう

令和2年10月 上江別小学校3年生
車いす操作を体験する児童たち



令和2年10月、上江別小学校で3年生を対象とした車いす体験学習を行いました。

社協職員が講師となり、車いすの操作方法や安心して車いすに乗ってもらえる介助のコツを説明した後、一人で車いすを操作する自走と後ろから車いすを押しながら介助する車いす体験を行いました。

実際に車いすを操作してみると、障害物や段差があったときに支援が必要なことに気づき、「助け合いの大切さを感じた」といった感想が話されていました。

視覚に障がいのある方の暮らしを知ろう

令和3年1月 大麻東小学校4年生

児童からの質問に答える白神展子さん（写真中央）、写真左奥がガイドヘルパーの鎌田紀子さん、写真右前が盲導犬のカムイクン



令和3年1月、大麻東小学校で4年生を対象とした視覚に障がいのある方の暮らしを知る学習会を行いました。

学習会は、盲導犬ユーザーの白神展子さんとガイドヘルパーの鎌田紀子さんが児童からの質問に答える形式で進められました。

児童からの「家事はどうやっているの?」「外出のときはどうしてるの?」といった質問一つ一つに白神さんは丁寧に答え、「近頃はスーパーで買い物する時に商品を触って、形で確認することがしづらくなった」とコロナ禍での苦労話も交えながら視覚障がい者の暮らしや気持ちを話されました。

鎌田さんからは、目が不自由な方と一緒に歩くときの誘導方法、声かけの方法など、ガイドヘルパーの役割についての説明がありました。そして児童の注目を集めた盲導犬カムイクンのことについても多くの質問が挙げられました。

この学習会を通して、ガイドヘルパーや盲導犬とともに外出することで、視覚障がい者の不自由さが大きく緩和されていることを知り、児童一人ひとりが自分に何ができるかを考える機会となりました。

手話学習



点字学習

高齢者疑似体験



問合せ

地域福祉係
☎ 385・1234

- 内容
- 車いす体験学習
 - 高齢者疑似体験学習
 - 手話学習
 - 視覚障がいについて理解を深める学習(当事者講話または点字体験)
 - 右記の他、車いす・高齢者疑似体験教材の貸し出しのみ可。

社協ではボランティア団体や福祉団体の協力を得ながら「福祉を学ぶ総合学習」のお手伝いをしています。

総合学習
お手伝いします。

社協 TOPICS

「通いの場」立ち上げガイド 作成しました!

社協では、すべての人が身体面の健康だけでなく、生きがいを感じ、住み慣れた地域で豊かな生活を送れるまちづくりや高齢になっても活躍できる地域づくりを目指し、介護予防等を目的とした「通いの場」を市内に多く展開できるよう、活動を支援しています。

この度、住民の皆さんが主体となって、ともに支えあう地域の拠点となる活動を立ち上げ、運営するための「**通いの場**」立ち上げガイドを作成しました。是非この冊子を参考に、仲間を誘って地域で「通いの場」を始めてみませんか。冊子は市内公共施設に設置するほか、社協ホームページでもご覧いただけます。

問合せ 生活支援体制整備事業担当 ☎385-1234



冬休みワークキャンプ オンラインで開催

1月8日、高校生を対象としたワークキャンプ(福祉体験学習)を開催し、江別高校の生徒2名が参加されました。

昨年度までのワークキャンプでは高齢者施設での業務を実際に体験していましたが、今回はコロナ禍であることからオンライン(ZOOM)での開催となりました。インターネットを通じて、特別養護老人ホーム静苑ホーム相談員が講師となり、『認知症の理解と関わり』を学習しました。参加した生徒は、「認知症のメカニズムの説明を受け、「認知症の方との関わり方の参考になった」と感想を述べていました。

企業の地域貢献



清涼飲料水をクリスマスプレゼント

12月2日 北海道コカ・コーラボトリング株式会社の
かげうらひでのり
景浦英範課長(写真右)から「福祉施設に届けてください」と清涼飲料水360本の寄贈がありました。

ボランティア事業へ助成金

12月24日 一般財団法人北海道信用金庫ひまわり財団(写真右は北海道信用金庫江別支店 林 俊樹支店長)から「社協のボランティア事業へ」と10万円の助成がありました。



●ボランティアによる悩みごとと電話相談●

社協登録ボランティア団体の相談員が悩みごとをお聞きします。

【相談無料】 ☎389-7830 なやみゼロ

相談日	相談時間	相談名・内容	担当団体名
毎週 火曜日	10時～15時	悩みごとテレホン相談 ▶ 家庭生活の諸問題に関する相談	江別家庭生活カウンセラーグループ
第2・第4 水曜日	10時～14時30分	にこにこ相談室 ▶ 家庭生活の諸問題に関する相談	江別市家庭問題研究会
毎週 木曜日	10時～15時	認知症の悩みごと相談 ▶ 認知症の悩みごとに関する相談	江別認知症の人の家族を支える会
第1・第3・第5 金曜日	10時～14時30分	悩みごとテレホン相談 ▶ 家庭生活の諸問題に関する相談	江別市家庭問題研究会

電話相談を行うボランティア3団体をご紹介します

私たちが相談者と一緒に問題を整理し、
解決に向けて考えていきます

日常生活の悩みごとや認知症に関する介護のこと等、
相談員が丁寧にお聞きします。
相談内容によっては、あなたに適切な相談先を紹介します。



火曜日担当
江別家庭生活
カウンセラーグループ

当グループは公益社団法人家庭生活総合カウンセリングセンターの江別地区として出前講座や会員の勉強会とともに、ボランティア電話相談を行っています。
家庭内や親族間における人間関係の相談は後を絶ちません。
コロナ禍のなか、在宅で過ごす時間が伸びていく中で、家庭での悩みも増えていくかもしれませんが、気軽にご相談ください。

水・金曜日担当
江別市家庭問題研究会

様々な相談を受理し、心の負担を軽減できるような心がけています。
新型コロナウイルスの影響から、経済的・精神的に不安定になっている方が増えています。また、ラインアプリなどスマートフォンを活用したやり取りが増えたことで、負担を感じている声も聞かれています。
一つひとつの相談に寄り添い、関係機関と連携して解決のお手伝いをしていきます。

木曜日担当
江別認知症の人の
家族を支える会

認知症の人を介護されている方の日頃の悩みやご苦労等の話をし、少しでも気持ちよく、楽になることを目指しています。また、面談も可能です。
最近ではコロナの影響で、親が入所する施設の面会制限があり、認知症の進行が心配・会話がなくても傍で手を握るなども出来ないとの葛藤を話される方が増えてきている印象があります。

社会福祉法人 英寿会

『英生塾』
受講生募集!!

「安心・安全・地域と共に」をスローガンに
“頑張る人”を応援致します

- 介護職員初任者研修(昼間・夜間通学コース)
- 介護福祉士実務者研修(9・11・2月度コース通信課程)

英寿会 事業所

特別養護老人ホーム えぞりすの杜	☎887-6333
地域密着型介護老人福祉施設かつこうの杜	☎391-9111
ショートステイくまげら	☎391-9111
ケアプラセンダー かつこうの郷	☎380-1244
小規模保育施設 ふくろうの森	☎398-5568
小規模保育施設 ぞうさんハウス	☎384-2280

英生塾事務局
〒069-0832
江別市西野幌92番地16
電話 (011) 375-7757
FAX (011) 375-7767
(お気軽にお問い合わせ下さい)

紙・事務用品・オフィス家具
OA 機器・学校教材

(有) ガク

江別市高砂町 10 番地(市役所横)
電話代)382-2553・FAX385-7878

生活困窮者の相談窓口 くらしサポートセンターえべつ『くらサポ』では、経済的に困窮している方、失業された方、引きこもりやニートで悩んでいる方など生活上の悩みを抱えている方の無料相談を行っています。
▶ くらサポ ☎375-8987 相談受付:平日8:45～17:15(年末年始は休み)

善意の寄付
ありがとうございました

令和2年12月1日～令和3年2月28日(敬称略・順不同)

社会福祉基金

▼趣旨に賛同して
匿名 10,000円、匿名 50,000円、匿名 100,000円

一般寄付金

▼趣旨に賛同して
(株)ふれあいファームのつ 30,000円、ダンスサークルまりも 10,000円、JAのつぼる職員OB会 21,735円、喜多 警 5,000円
▼事業活動資金として
北海道信用金庫ひまわり財団 100,000円

災害義援金

▼令和2年7月豪雨災害義援金(共募事務局受付分)
野幌高等学校 9,567円



福祉センターからの
お知らせ

開館日時

月曜日 9時～17時
火～日曜日 9時～21時
※月曜日が祝日の日は、休館します。火～日曜日は、祝日も開館しています。

【4月～6月 休館日】
5月3日(月)

対策実施中

消毒のご協力をお願いします。

社協会長
おじゃましました

12月 江別市おもちゃ図書館 クリスマスお楽しみ会

1月 北海道社会福祉協議会 地域部会総会(オンライン)

2月 江別地区保護司候補者 検討協議会、江別市社会福祉 審議会

ボランティア活動保険
ご案内

社協では活動中の事故を補償する令和3年度ボランティア活動保険の受付を開始しています。

【加入対象】 ボランティア活動に取り組む個人の方など幅広く加入の対象になります。

【補償内容】 活動中のボランティア自身のケガ及び他人の物を壊したり怪我をさせたことによる損害賠償責任を補償します。

【補償期間】 加入申込完了翌日から令和4年3月31日まで。

【保険料】 令和3年度の保険料は次のとおりです。

活動保険料 (1名あたり)

基本プラン	350円
天災・地震補償プラン	500円

補償内容・補償金額はホームページ(「ふくしの保険」で検索)または社協備え付けのパンフレットでご確認ください。

医) 英生会 野幌病院 JR野幌駅前 TEL382-3483

野幌病院 地域医療相談室	TEL 381-2643
介護老人保健施設 老健のっぼろ	TEL 381-1133
老健のっぼろ通所リハビリテーション	TEL 381-1177
在宅介護相談べつ 英生会ケアプランセンター	TEL 381-8858
訪問看護ステーション のっぼろ 訪問看護科	TEL 381-7877
訪問リハビリテーション科	TEL 381-1193
英生会グループホーム ゆめみの	TEL 391-3119
小規模多機能ホーム ゆめみの	TEL 391-3229
江別第二地域包括支援センター(江別市委託事業)	TEL 389-5420

江別の皆様とともに 地域の発展に貢献します

EPA 江別印刷業協同組合

〒069-0801 江別市中央町29番地の33 (有)アスカ印刷 内 事務局 TEL・FAX (011) 389-6730

組合員	(有)アスカ印刷	(有)ア・ノ研究社
笹岡印刷(株)	(株)のっぼろ印刷	(有)トラスティプリント
藤塗装工業(株)	(有)山田印章印刷	(有)くらしの新聞社 賛助会員

お墓 新規建立・リフォーム・お墓じまい

見えづらい文字のペンキ塗り替え・花立ての交換・目地修理・追加文字彫刻・お墓のお掃除 ☆お墓のことならどんなことでもお気軽にご相談下さい。

★「安心石材店の会」加盟店・15年の安心施工保証 江別市営墓地工事実績1700基・墓石ローン取扱

TEL (011) 383-1232

(有) 上光石材工業

本社・展示場 江別市牧場町1-21 工場 江別市工業町21-33

損害保険・生命保険代理業

地域に密着した保険専門店

保険サービス・ジャパンエージェンシー

保険の無料相談実施中

【営業時間】 平日9:00～18:00 定休日 土曜日・日曜日・祝日

商号:有限会社イー・エス・オフィス

〒069-0824 江別市東野幌本町19番地の1 0120-74-0433

税の優遇 個人や法人の社協への会費・寄付金及び共同募金寄付金は、法令などで定める要件に該当した場合、法人税・所得税・個人住民税の優遇(軽減)措置があります。

7 社協会費 社協会費納入者は、年度分をまとめて7月号で掲載します。

ボランティア掲示板

生活支援体制整備事業

江別市内の「通いの場」情報！地域の活動を紹介します



ケアサークルほのぼの



ケアサークルほのぼのでは、江別レクリエーション協会会員と一緒に、体操や脳トレを行っています。手作りの道具を使いながら運動をしたり、思い出しゲームをしたりと、全員で輪になってほがらかな雰囲気です。合間には、“口の体操”として、おしゃべりの時間もあり、とにかく笑いが絶えません。

コロナ禍の現在は感染対策として、全員マスクをし、隣の人としっかり間隔をあけています。活動を通して、ほかの方からステイホームの工夫を聞き、うちでもやってみよう！と思うなど、大切な情報交換の場にもなっているそうです。平成19年の立ち上げ当初から参加している方も、最近参加されたという方も、口をそろえて「ここに来てみんなと笑うのが楽しみ」とおっしゃっていました。

無料体験や入会を随時受付中です！参加してみませんか？



開催日 / 第2・4火曜日 13時30分～15時00分

場所 / 江別市コミュニティセンター

(3条5丁目11-1)

会費 / 月1,300円(会場費・年間保険料 他)

問合せ 西原 ☎382-2846

江別市ボランティア団体連絡会

ボランティア会員団体を紹介します



江別オレンジサポーターつながる会（愛称：江別ロバの会）



昨年10月に江別市ボランティア団体連絡会に加入した江別オレンジサポーターつながる会(江別ロバの会)をご紹介します。

同会は認知症サポーター養成講座受講後に認知症サポーターステップアップ講座を受講した有志20名で構成されており、主な活動として、認知症サポーター養成講座の周知及びお手伝い、認知症に関する相談窓口を知らせるカードの作成、認知症に関するイベントなどへの参加を行っています。現在は認知症の人とその家族が暮らしやすいまちづくりを進めるための具体的

な活動や認知症の予防にも視点を置き情報収集や発信を検討しているとのこと。

団体名の“つながる会”の由来は、「本人も地域もつながっていく、地域みんなで支える」という願いが込められています。これからも江別の認知症の人やその家族が暮らしやすいまちづくりの担い手となる事が期待されます。

本誌4月号には、今年度2年目を迎える第4期地域福祉実践計画に基づく「令和3年度社協の事業計画と予算」の概要が紹介されています。
社協は、地域で暮らしている高齢者や障がい者などの在宅生活を支援し、福祉のまちづくりの実現を目指した様々な活動を行っています。
住民の多様な福祉ニーズに応えて、くらしサポートセンターや成年後見支援センターの運営、またコロナ禍における生活支援などにも取り組んでいます。
新型コロナウイルスの影響が長期化する中、収束の切り札と期待されるワクチン接種が始まりましたが、まだまだ日常生活の回復には時間がかかりそうです。
地域における福祉活動の拠点として、社協の役割は益々大きくなっていくものと思っています。

広報編集委員会委員

高橋

信行



編集後記



赤い羽根共同募金は、社協だよりも役立てられています